

# 会報

# こぶし

## 里山を歩きながら

花北地区「コミュニティ協議会」会長 高橋 修

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大対策の影響で、今まで普通に行われてきた事のほとんどが中止となり、冠婚葬祭をはじめ、地域の行事計画も難しい状況です。

平成23年3月11日の東日本大震災から10年が過ぎ、電気が点かず連絡がとれなかった苦しい思い出が遠ざかり、今回は伝染病対策で新しい不自由さを感じています。

「不要不急の外出はやめて」というのは、一歩外に出ると人混みの東京のような大都市のことで、花巻の人たちは屋外なら大いに出て、良い空気に触れるべきだと思います。

矢沢の胡四王山には「宮沢賢治記念館」があり、例年だと観光客がいっぱい訪れる所ですが、最近はずかです。私は30年前に記念館周辺の散策路整備に関わった関係

発行 花北地区  
コミュニティ協議会  
編集 総務企画部会

もあり、散策を兼ねて時々訪れております。花北地区からだだと、自家用車で15分くらいです。

4月中旬には、カタクリの群落が見られ、7月から8月はヤマユリの花が一面に咲きます。今は雪が積もっておりませんが、長靴なら歩けます。積もった雪には、ウサギ、キツネ、ヤマドリ等の足跡が見られます。道路脇に植えられたアジサイの芽は少しずつ膨らんで、その下の「葉痕(葉っぱの落ちた痕)」は、冠を被った人の様に見えます。

胡四王神社の直ぐ下には、スギとカラマツの林がありこの林には思いがけない歴史がありました。昭和20年4月16日に、厚生病院(今の



顔が見えますか？

知らないうちに、拡めちゃうから。

# STOP!

## 感染拡大

— COVID-19 —

新しい花巻病院)が火事になり、春の西からの強風により、火は北上川を越えて高木から胡四王山を焼き、今の新幹線駅付近まで延焼したそうです。スギの木などは、その後植えられたもののようなです(樹齢75年くらい)。

関連して歴史を調べると、その3月には、盛岡駅周辺の空襲や8月10日の花巻の空襲など、先輩方は、「今では想像できない悲惨な状況」を、乗り越えてきたのだと思います。

もうすぐ新しい年度が始まりますが、皆さんで知恵を出しながら、状況に合わせた方法で乗り越えていきましょう。

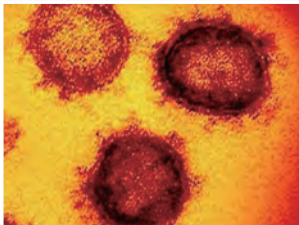
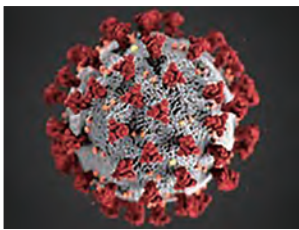
### こぶし29号の発行とコロナ禍

総務企画部会長 佐藤 俊二

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、花北コミュニティ協議会の活動もほぼ休止の状況となっています。花北振興センターの利用も休日は利用中止、平日も17時閉館、様々な制限等からこぶしの発行も休止

案が出る中、今だからこそコロナ禍の活動を記録すべきとの結論になりました。以下、参考資料です。

『コロナウイルスを検索した結果、新型コロナウイルス感染症とは2019年に発生した新型コロナウイルス感染症(国際正式名称: COVID-19)は、SARS(コロナウイルス2 (SARS-CoV-2) がヒトに感染することによって発症する気道感染症である。多くの場合、無症状または風邪様症状を伴う軽症で自然治癒するが、重症では急性呼吸窮迫症候群や敗血症、多臓器不全を伴う。日本においては、2020年時点では単に新型コロナウイルス感染症と呼ばれ、感染症法に基づいて強制入院などの措置を取ることができる指定感染症(二類感染症相当)に指定されたほか、新型インフルエンザ等対策特別措置法上も期限付きで新型インフルエンザ等とみなされ、日本国政府が緊急事態宣言を発令できるようにになった。



【資料出典: ウィキペディア】